国語科　学習指導案

八尾市立龍華中学校

研究テーマ：学びへのスムースな導きと、学んだことを定着させ、深めるための授業

<table>
<tr><td>教科</td><td>国語科</td><td>学年・組</td><td>第１学年２組</td><td>場所</td><td colspan="2">第１学年２組教室</td></tr>
<tr><td>単元名</td><td colspan="6">今に生きる言葉　『矛盾』　（第１時／全２時）</td></tr>
<tr><td>本時の目標</td><td colspan="6">・漢文を音読し、漢文特有のリズムや言い回しに親しむことができる。
・文章中の表現を根拠に、盾と矛を売る人が質問に答えられなかった理由を考え、交流を通して読みを深めて自分の言葉で説明することができる。</td></tr>
<tr><td>本時の評価規準</td><td colspan="6">・積極的に漢文を音読し、漢文のリズムや言い回しに親しもうとしている。
・文章中の具体的な表現に着目し、商人が答えられなかった理由を考え、他者との交流を通して自分の考えを深め、説明している。
・故事成語の成り立ちや意味を理解し、書き下し文と現代語訳を照らし合わせて内容を捉えている。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">本時の判断基準</td><td>評価の観点</td><td>A：十分満足できる</td><td>B：おおむね満足できる</td><td colspan="2">支援を要する生徒へのてだて</td></tr>
<tr><td>思考・判断・表現</td><td>文章中の具体的な表現（二つのセリフの食い違いや結末の描写など）を根拠にして商人が答えられなかった理由を説明し、他者との交流を踏まえて自分の考えを深めたり更新したりしている。</td><td>文章中の表現に着目して商人が答えられなかった理由を考え、自分の言葉で説明している。</td><td colspan="2">「吾が盾の〜」「吾が矛の〜」などの具体的な発言に着目させ、何と何が矛盾しているのかをワークシートで整理できるよう働きかける。また、交流で出た仲間の着眼点を参考に自分の考えを補足できるよう支援する。</td></tr>
<tr><td>主体的に学習に取り組む態度</td><td>ペア活動の音読に進んで取り組み、漢文特有のリズムを確かめ、古典に親しんでいる。</td><td>ペア活動の音読に取り組み、漢文の読みのリズムに気づき、古典に親しむ姿勢がみられる。</td><td colspan="2">ペアで繰り返し音読するよう働きかけ、漢文特有の読み方やリズムに気づき、声に出して読む楽しさを感じられるよう支援する。</td></tr>
</table>

１．本時のめあてと、そのねらい

めあて	文章中の表現を根拠に、商人が答えられなかった理由について自分の考えを説明しよう。 【探究・思考型】
ねらい *教材観、生徒観、指導観を含む	単元を通して、「様々な故事成語の意味を理解し、正しく使えるようになる」ことをめざした言語活動を設定する。本学級では、事前に『蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から』を学習し、古典特有の表現や読み方に触れてきた。漢文は中学生になって初めて学習するため、ペアになって互いに確認し合いながら繰り返し音読することで、漢文特有の言い回しやリズムに慣れ親しませ、古典学習への意欲につなげたい。 本時では、商人が質問に答えられなかった理由について、単に「分かったこと」を述べるにとどまらず、「本文中のどの言葉・表現に着目したのか」という根拠を明確にして自分の考えを形成させる。さらに、ペアや全体での交流を通して多様な着眼点や解釈に触れさせ、自分の読みを深めたり更新したりする過程を重視する。振り返りでは、めあてに対応させ、「着目した表現」「そこから考えた理由」「交流によって考えがどう深まったか・変わったか」を自己評価とともに記述させることで、思考力・表現力の確実な定着を図る。

２．期待する振り返りの好例（めあてを踏まえて）

「私は、商人の『吾が盾の堅きこと、能く陥すもの無きなり』と『吾が矛の利なること、物において陥さざる無きなり』という二つのセリフ（表現）に着目しました。何でも突き通す矛と絶対に防ぐ盾が同時に存在することは論理的におかしいので、質問に答えられなかったのだと考えました。その後の交流で、A さんの『商人が「応ふる能はざるなり（答えられなかった）」という沈黙の表現』に着目した意見を聞き、商人は売るためにその場の勢いで誇張してしまい、取り返しのつかない状況に追い込まれていたという人物の心理まで考えを広げることができました。文章の言葉を根拠にして、自分の考えをしっかりと説明できたと思います。」

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢文特有のリズムを確かめ、様々な故事成語の意味について理解できている。	文章中の表現を根拠に考え、他者との交流を通して自分の考えを深め、説明したり書いたりすることができている。	言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

４．単元の指導と評価の計画

時	学習内容	評価の観点
1 本時	文章中の表現を根拠に、商人が質問に答えられなかった理由を考え、交流を通して読みを深めて説明しよう。	「矛盾」の意味を本文から理解し、短文を書くことができている。
2	様々な故事成語の意味を調べ、自分の生活と結び付けて文章を書く。	国語便覧から様々な故事成語を知り、自分の体験と結び付けて文章を書くことができている。

５．本時の学習過程

	学習活動	◇指導上の留意点 〇理解の不十分な生徒への手立て	評価の観点 （評価方法）
導入 （３分）	ペアで好きな言葉・座右の銘など紹介しあう。	具体例を示し、言葉に込められた思いや理由も伝えるよう促す。	ペア活動に積極的に参加しているか。（主体的に学習に取り組む態度）
	①「今に生きる言葉」を読み、故事成語とはなにか理解する。 めあての確認	中国の歴史に由来し、古くから伝えられてきたたとえ話やエピソードをもとにしていることをおさえる。	故事成語とはなにか理解できている。（知識・技能）
めあて：文章中の表現を根拠に、商人が答えられなかった理由について自分の考えを説明しよう。			
（１４分） ①７分 ②７分	②『矛盾』をペアで音読（2回ずつ読む）。 ・1回目：現代仮名遣いに直す部分に注意して正しく読む。 ・2回目：文章の意味を考え、句切りや強調を意識して読む。	本文の範読をし、読み方をまねして音読させる。 聞く側の人は、チェックをし、よかったポイントを伝える。	ペア活動の音読に進んで取り組み、漢文特有のリズムを確かめ、古典に親しんでいる。 （主体的に学習に取り組む態度）
展開２ （１５分） ①・②8分 ③7分	①書き下し文と現代語訳を読み取り、故事を捉える。 ②商人が質問に答えられなかった理由を、「どの表現に着目したか」とともにワークシートに記述する。 ③【ペア・全体交流】 自分が根拠とした表現と理由を共有し、仲間の着眼点を取り入れて読みを深める。	書き下し文と現代語訳を照らし合わせ、登場人物の発言や故事の展開を正確に読み取らせる。 二つの発言（「能く陥すもの無きなり」「陥さざる無きなり」）の食い違いに着目させる。 理由だけでなく、必ず本文中の言葉にサイドラインを引かせ、根拠として引用させる。 自分と異なる表現（商人の沈黙や態度の描写、客の問いかけなど）に着目した意見にも耳を傾けさせ、思考を広げさせる。	書き下し文と現代語訳を照らし合わせながら、故事の内容や展開を読み取っている。（知識・技能） 商人が質問に答えられなかった理由を、二つの発言の食い違いに着目して考え、自分の言葉で説明している。（ワークシート・発言）（思考力・判断力・表現力）

まとめ （１８分） ①9分 ②9分	①【振り返りシートの記入】 以下の項目に沿って記述する。 1. 着目した文章中の表現（根拠） 2. そこから考えた理由 3. 交流によって深まった・変わったこと 4. 本時のめあてに対する自己評価 ② 数名の振り返りを共有し、現代にも通じる「矛盾」の意味と教訓を確かめ、まとめる。 （※発展として「矛盾」を用いた短文づくりや用例確認）	「分かったこと」だけで終わらせず、「どの表現に着目したか」「交流によって考えがどう変わったか」が記述できているかを机間指導で確認・称賛する。 めあて「文章中の表現を根拠に説明できたか」に立ち返り、生徒自身に到達度を評価させる。	めあてを踏まえ、文章の表現を根拠に考えを深め、自己の学びを適切に振り返ることができているか。 (思考力・判断力・表現力)